25社会保障Ⅰ　6月12日　3限目13：00～14:30　●リアクションペーパー＃７

学科名　　　　　　　　　学年　　　　学生番号　　　　　　　氏名

第7回【欧米の社会保障の歴史】イギリス、ドイツ、アメリカの制度とその歴史的変遷

に関して、以下の記述のうち、明らかに間違っている記述を選んで（１つとは限らない！）、間違いの箇所に線を引いて、その番号を答えなさい（番号に◯）。

1. 社会保障の始まりは、アメリカの救貧法にある。
2. イギリスの救貧制度の限界は、個人の生存権などの権利の保障ではなく、慈悲（チャリティ）に基づく救済という考えにあった。
3. 貧困の個人責任論とは、個人は国家や社会に頼るのではなく自らの責任（自助）で生計を維持すべきだという考え方。このため救貧院には、対象者の処遇は外部の労働者の最低水準以下とする劣等処遇（less-egligibility)の原則があった。
4. ケースワーカー（CW)の起源は、1869 年イギリスで慈善組織協会の友愛訪問が始まり、ここでは貧困者1人1人についてケース記録が取られるようになり、そのための専門調査員が生まれたことによる。この慈善活動の専門職の養成が今日の社会福祉士（SW)へと発展してきた。
5. 社会保険の前身は、労働者層の相互組織（友愛組合・共済組合・共同組合）において、加入者が掛け金を支払い基金を作り、加入者の疾病、老齢、死亡に対し給付をする仕組みに遡る。
6. 6月1日はメイデー（May day）労働者の日として知られている。
7. フランスの鉄血宰相ビスマルクが最初に社会保険を導入した。
8. ビスマルクは、1883年に疾病（医療）保険、1884年に災害（労災）保険、1889年に老齢・疾病保険（年金）を導入した。
9. ドイツでは、1929年世界大恐慌を契機に、失業率の上昇・失業問題の深刻化し、これに対し、ニューディール政策が導入された。
10. アメリカでは、1935年に世界最初の社会保障法が成立、様々な制度の総称としての「社会保障」概念が使われた。
11. イギリスでは、第二次世界大戦（1939-1945）は「福祉国家（Welfare State）と「戦争国家（Warfare State)」の間の戦いとされた。
12. 「ベヴァリッジ報告」：1942年、経済学者ビバリッジ（W.H. Beveridge）を長とする委員会が英国政府に提出した社会保障制度に関する報告書。 戦後の英国社会保障制度の基礎となった。社会保障の第一目標として「国家によるナショナル・ミニマム（国民的最低限）の保障」が掲げられた。
13. 福祉国家体制の確立期：1950－1960年代に他の資本主義国も大幅な社会保障制度の拡充　共通の政策目標：完全雇用政策、ナショナルミニマムの保障。広範な社会サービス（医療・教育・福祉など）の提供